

学生交流から始める国際化 その4

－ことばを通じた教育的交流活動の報告及び今後の学習支援案－

酒匂 康裕・林 君穂・河野 英二・中野 徹

1. はじめに

本稿は、2008年度より近畿大学内にて外国語担当教員による外国語学習支援活動、また、国際交流活動として位置づけて実施してきた、「パートナーシップ」と「ことばのフェスティバル」の実施内容について5年間の総括を行なうとともに、今後様々なニーズに対応していくための外国語学習支援活動案を提示するものである。

大学における様々な履修科目のうち、外国語科目として英語のほか、いわゆる第二外国語がある。近畿大学の場合、学部によって違いはあるものの、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語、イタリア語の授業が開講されている。これらの外国語は、多くの受講生にとって初めて触れる言語である。しかし、限られた学習時間、学習環境にもかかわらず、選択した言語や文化に対して受講前から持っていた関心を、ますます深める学生がいる。そのような受講生は第二外国語の学習を通して「さらにその言語を学びたい」、「学んでいる言語を実際に使用してみたい」、「学んでいる言語を母語とする人と交流してみたい」等、外国語に対するより高いモチベーションを獲得し、外国語教育のカリキュラム以外の場での学習や、外国語の使用を求めるようになる例が決して少なくない。

また一方で、留学生の場合、大学に入学後、周辺には多くの日本人学生がいるが、授業時間を含めた日本人学生との交流は限られており、友人関係にまで発展するには困難な事例が多く見受けられる。留学生も日本人学生との交流の機会を求めているのである。

このように、日本人学生と留学生双方のニーズは一致するが、互いにそのきっかけが掴めない状況にあったことから、外国語教育を担当する教員として教育的交流活動の機会を提供すべく、2008年度より「パートナーシップ」と「ことばのフェスティバル」を始めることになった。

それぞれの活動については後述のとおりであるが、ふたつの行事は年間を通じた連動性のあるものとして始めたものである。即ち、日本人学生と留学生が出会い、交流のきっかけを提供する「パートナーシップ」において友人関係の構築を目指し、その後、各自の交流を経て、お互いの言語・文化についての理解を深め、約半年後に開催されるスピーチコンテスト形式の「ことばのフェスティバル」において、自らが磨いた語学力を披露するという連動である。

第1回（2008年度）と第2回は近畿大学旧語学教育部学習支援委員会が実施した。同委員会は、行事開催の広報活動などの事前準備から参加学生の募集、当日の進行を担当した。その後2010年度より、近畿大学全学共通教育機構教養・外国語教育センター主催に変更され、同センター広報出版委員会に引き継がれた¹。

2. 実施内容のまとめ

本章では5年間活動が続けてきた、「パートナーシップ」と「ことばのフェスティバル」につき、実施時期や準備内容、当日の流れ、結果などをまとめることとする。

2.1 パートナーシップ

本行事は、本学の日本人学生と留学生が出会う機会を提供し、それが学生相互の自主的かつ積極的な国際交流活動へ展開することを目的として実施した。

2.1.1 開催日時・場所

表1のとおり、本行事は全て前期（6月～7月）に実施した。これは前述のとおり、日本人学生と留学生ができるだけ早い時期から交流し、友人関係を構築するきっかけを提供することを目指したためである。4月や5月の開催も可能であったが、この時期は新入生にとっては大学生活に慣れるための時期でもあり、特に第二外国語を履修しはじめた日本人学生にとっては、学習後、2ヶ月程経過すると該当言語の姿が見えはじめる時期に差しかかることから、この時期に開催することにした。また、開催時間は年度毎に違いがある。これは参加を希望する学生の授業時間とできるだけ重ならないよう考慮した結果である。しかしながら、いずれの時間帯に設定しても、授業やアルバイト等と重なることになり、第5回では多くの学生にとって、授業終了後となる午後6時以降の開催とした。

開催場所は、100名程度が収容可能で、懇談と簡単な飲食ができる場所を検討した結果決めた（表1）。第3回より場所が変更されたが、これは参加者が余裕を持って会場内での移動ができ、且つ交流をはかるための簡単なゲームができる空間が必要であったためである。

回	日時	場所
第1回	2008年6月11日（水）14:50～16:20	11月ホール地下 Cafeteria November
第2回	2009年7月1日（水）15:00～17:00	〃
第3回	2010年6月16日（水）16:30～18:00	BLOSSOM CAFÉ 3F 多目的ホール
第4回	2011年6月15日（水）14:50～16:20	〃
第5回	2012年6月13日（水）18:10～19:40	〃

表1 パートナーシップの開催日時・場所

2.1.2 参加人数

これまでの参加人数は表2のとおりである。日本人学生と留学生の参加数が同等であることが望ましいが、授業時間の関係から参加ができない、本学内に在籍する留学生数が日本人学生数と比べると少ないなどの理由から、日本人学生数の方がやや多くなっている。

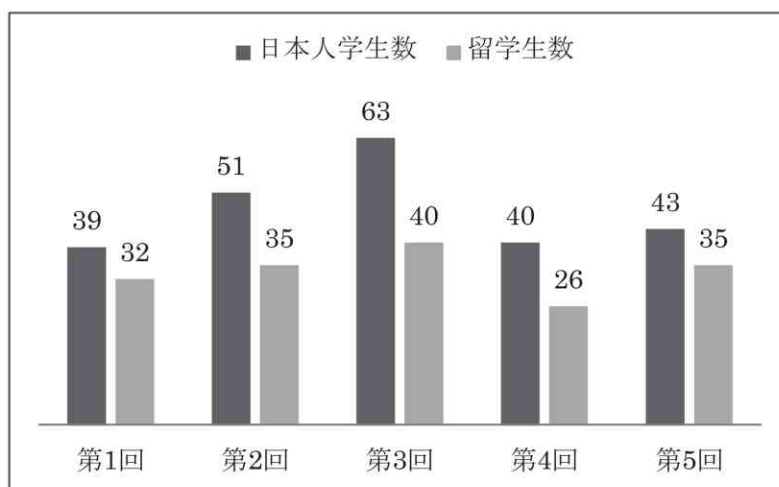


表2 パートナーシップの参加学生数

2.1.3 実施内容

本行事は、年度により内容の違いはあるが、当日の流れはおおむね次の①から⑥のように構成されている。

- ①受付：申し込み時に購入したチケット（500円）を提示し、受付後には軽食を受け取り、テーブルにて待機する。第2回以降は、本行事に参加経験のある学生を中心に受付業務と座席案内を担当する。
- ②開始：イベントの進行内容を説明する。特に、本行事以降にも参加学生間の交流を継続すべきことを強調する。
- ③アイスブレイキング：参加学生が自ら作成してきた名刺を用いて、お互いに自己紹介から始め、様々な話へ発展させる。
- ④ゲーム等：
 - 第1回 台湾からの留学生による、台湾で行われているゲームの紹介。
 - 第2回 外国語と日本語の早口言葉の披露。
 - 第3回 日本人学生スタッフによるゲームの紹介。
 - 第4回 本行事に参加経験のある学生が結成した、留学生との交流・外国語学習サークルのメンバーによる中国語と韓国語の歌の披露。

第5回 表現したい外国語・日本語を書く「ミッションシート」を用いて、それぞれの言語での表現を調べ、様々なことばに触れる活動。

- ⑤留学体験談報告：本学主催の語学研修に参加した学生と1年間休学をして長期留学をした日本人学生が留学体験談を発表する（第5回のみ）。
- ⑥各種案内：後期に実施する「ことばのフェスティバル」の案内、さらには語学研修や外国語学習サークルの案内などを行ない、本行事後にも交流や学習を継続するように促す。



写真1 歓談の様子



写真2「ミッションシート」を用いたことばの学習

2.1.4 今後の展開

行事終了後には日本人学生、留学生ともに有意義な時間が過ごせたという感想が多く寄せられたことや、中国語や韓国語を学習するサークルの発足など、日本人学生と留学生の交流が引き続き行なわれた事例も確認できたため、当初の目的をある程度達成することができたと言える。

しかし、準備段階において、広報活動にいくつか課題が残った。参加学生の募集には学内でのポスター掲示や大学ホームページへの掲載以外に、日本人学生については第二外国語の授業時間内に呼びかけを行なった。これによって、日本人学生を毎回一定数募ることができたが、留学生の募集については毎回困難がともなった。外国語担当の教員に日本語科目を担当している教員がいないため、授業内での呼びかけができなかったからである。そのため、教員個人のルートで留学生に呼びかけを行なったり、国際交流室に留学生会へ広報を依頼したり複数の方法を取った。また、行事当日は楽しかった等の声がたくさん聞かれたが、交流が続き「ことばのフェスティバル」での発表に繋がった事例が僅かであったことも事実である。これは、交流のきっかけを提供する上では成功したと言えるが、そ

の後、交流を維持し、語学学習の「パートナー」としてお互いを高め合うまで結びつけていくには、当人同士の関心と高いモチベーションの維持が必要であるためと考えられる。

今後も日本人学生と留学生が交流するきっかけを提供していくことは必要であろう。しかし、一過性のものとして終えるのではなく、内容のある交流を維持してこそ、本行事の目的が達成されたと言えるが、過去五年の活動において、そこまで達成できたとは言い難い。

このような中、2012年度前期に国際交流室による「留学生サポート制度」が始まった。これは本学の新入留学生と日本人学生が5～6人のグループとなり、日本人学生が留学生に対し、本学における大学生活に一早く適応してもらうため、学内での各種手続きの手伝いを行なう制度である。しかし、この活動は日本人学生から留学生への一方的なサポートのみならず、グループ活動を通して学生同士が、相互の文化や価値観などの違いを認め合いながら信頼関係を築きあげ、友人関係へと発展させることが最終的な目標である。この制度は「パートナーシップ」と比べると、外国語学習のきっかけを提供するという面においてこそ違いがあるが、最終的には「パートナーシップ」の活動目的と一致するものである。

そこで、平成25年度以降は「留学生サポート制度」に「パートナーシップ」の流れを継承させ、学生間の日常的な交流の機会を増やししながら、より深い交流が実現できるよう関係教職員間での連携を持ち、引き継いでいくこととする。また、本制度は新入留学生へのサポート活動から始まるため、日本人学生にとっては本学における先輩として役割を果たすことが期待されている。そのため、本制度に参加できる日本人学生は2学年以上に限られている。「パートナーシップ」の発展的解消は、日本人学生の1年生にとっては、留学生との交流のきっかけの場がひとつ失われたとも言える。そこで、日本人学生の1年生にとっても新たな「パートナーシップ」が必要となってくると言えるが、これについては3章で言及することとする。

2.2 ことばのフェスティバル

「ことばのフェスティバル」では、発表者が様々なテーマ（私の近大生活、留学体験、留学生との交流エピソード等）を決め、「パートナーシップ」で出会った日本人学生と留学生がパートナーとなり、発表の質を高めるべく、発表原稿の作成後にネイティブチェックを受け、発音の練習、発表中の身振り手振りの指導などを行ない発表に臨んだ。本行事は、発表者とパートナーの共同作業を通して、ことばの運用能力を向上させること、および学生間の活発な相互交流と相互理解を深めることを目的とする行事である。

2.2.1 開催日時・場所、観客数

前述のとおり、本行事は「パートナーシップ」の流れに続くものであり、開催時期は全て後期（12月）に行った。これは、学内の主要行事が比較的少なく、発表者が秋以降、余裕を持って発表の準備ができるという理由からこの時期に設定された。以下の表3は各回の開催日時と場所、並びに観客数である。

回	日時	場所	観客数
第1回	2008年12月10日(水)16:30～18:00	11号館5-4教室	約50
第2回	2009年12月2日(水)16:30～18:00	38号館2F多目的利用室	〃
第3回	2010年12月10日(金)16:30～18:30	〃	約70
第4回	2011年12月7日(水)16:30～18:00	BLOSSOM CAFÉ 3F多目的ホール	約100
第5回	2012年12月5日(水)16:30～19:30	A館301教室	約70

表3 ことばのフェスティバルの開催日時・場所、および来客数

2.2.2 準備と当日の実施内容

毎年12月開催に向けて、準備は後期の授業開始後、約1ヶ月経過した10月中旬から始めた。具体的な作業として、会場の確認と確保、発表者を募集するためのポスターおよび案内文の作成、これらを用いた広報活動（学内での掲示、授業内での呼びかけ）、発表者確定後には再度観客募集のための広報活動（上記のほか、大学ホームページの掲載、広報課によるプレスリリースの作成）が挙げられる。

また同時に、発表者とは発表原稿作成時から原稿提出完了時まで電子メールを用いて逐次確認を取りながら、発表当日に向けた調整を行ってきた。その他、審査委員の依頼や受賞者への賞状作成、副賞と参加賞の選定および発注依頼、会場設営準備に至るまで、担当委員が分担して準備を行ってきた。

このように本行事は教員の委員会活動として行なわれたものであるが、学内における各事務部署との連携が必要であり、年々規模が拡大するにつれて全学的な取り組みとなりつつあると言えるであろう。

行事当日は会場設営から受付、観客の案内、ビデオと写真による記録、司会進行、審査後の点数の集計などを行ったが、受付と観客の会場案内を学生ボランティアへ依頼しており、教職員のみならず、多くの人によって運営される行事となっている。

2.2.3 発表方式、および発表言語と発表者数

当初、本行事は第二外国語を学ぶ学生のうち、特に中国語と韓国語を学ぶ学生を中心と

したスピーチコンテスト形式の行事であった。その後、留学生による日本語での発表、中国語や韓国語以外の第二外国語開講科目であるドイツ語やフランス語、スペイン語、イタリア語での発表、審査対象外の言語としてタイ語での発表など、多彩な言語により発表が行われた。また、スピーチ以外にも、外国語による歌やコントの披露など、名実ともに「ことばのフェスティバル」として充実してきた。以下の表4は、第1回から第5回までの発表方式、および発表言語と発表者数をまとめたものである。

回	発表方式	発表言語	発表者数	発表者合計
第1回	外国語スピーチ	中国語	9名	12名
		韓国語	3名	
第2回	外国語スピーチ	中国語	5名	16名
		韓国語	4名	
		ドイツ語	4名	
	日本語スピーチ	日本語	2名	
	審査外特別スピーチ	タイ語	1名	
第3回	外国語スピーチ	中国語	7名	21名
		韓国語	6名	
		ドイツ語	5名	
		フランス語	1名	
	日本語スピーチ	日本語	2名	
第4回	外国語スピーチ	中国語	5名	23名
		韓国語	5名	
		ドイツ語	2名	
		フランス語	2名	
	日本語スピーチ	日本語	2名	
	審査外特別スピーチ	中国語	1名	
		韓国語	3名	
	パフォーマンス（歌）	中国語	1名	
		韓国語	1名	
	パフォーマンス（漫談）	ドイツ語	1名	

第 5 回	外国語スピーチ	中国語	2 名	25 名
		韓国語	3 名	
		ドイツ語	3 名	
		フランス語	1 名	
		スペイン語	2 名	
	日本語スピーチ	日本語	3 名	
	パフォーマンス (複数言語によるスピーチ)	ドイツ語 フランス語 スペイン語	1 名	
	パフォーマンス (歌)	中国語	2 名	
		韓国語	1 名	
		日本語	1 名	
	パフォーマンス (コント)	中国語	2 名 (パートナーと 共に出場)	
	パフォーマンス (漫才)	日本語	2 名	
	審査外特別パフォーマンス (コント)	韓国語	2 名	

表 4 発表方式、および発表言語と発表者数



写真 3 発表会場の様子



写真 4 二人組での発表

2.2.4 審査内容、および各回の審査結果

本行事は参加者の発表だけではなく、発表内容を審査のうえ、表彰も行なっている。審査は発表時の発音の正確さや表現の斬新さ、話の構成などを審査する語学面と、発表内容に合わせた動作や声量、聴衆へのアピール度などを含めた発表態度面から行なわれている。

審査委員は本学において外国語を担当する教員が受け持ち、一言語につき2名が言語面から審査を行い、また担当言語以外の発表時にはその2名が発表態度面の審査を行なった。表5は各回の審査結果である。

審査結果は当日発表され、表彰式を設けた。審査委員長による総評後、審査委員（長）から表彰状と副賞（語学学習に有用なツール）が授与され、入賞者以外には参加賞が授与された。また来場者からコメント・感想（資料編2. を参照）を集め、次の開催の参考とした。

回	順位		発表言語	発表学生所属・学年	備考
第 1 回	1 位		韓国語	文芸学部・2 年	
	2 位		韓国語	文芸学部・1 年	
	3 位		中国語	理工学部・2 年	
	特別賞		中国語	理工学部・2 年	
第 2 回	1 位		ドイツ語	文芸学部・3 年	
	2 位		中国語	法学部・3 年	
	3 位		日本語	経営学部・1 年	
	特別賞		中国語	文芸学部・1 年	
			韓国語	文芸学部・3 年	
第 3 回	1 位		韓国語	文芸学部・2 年	
	2 位		ドイツ語	法学部・3 年 文芸学研究科・M1	ペアで出場
	3 位		韓国語	文芸学部・1 年	
	人気賞（特別賞）		日本語	留学生別科	
第 4 回	1 位		中国語	文芸学部・3 年	
	2 位		日本語	経済学部・1 年	
	3 位		韓国語	経済学部・4 年	
	人気賞（特別賞）		日本語	留学生別科	
第 5 回	外国語スピーチ部門	1 位	フランス語	文芸学部・4 年	第5回より発表言語や内容に分け部門を新設
		2 位	ドイツ語	文芸学部・3 年	
		3 位	中国語	経済学部・3 年	
	日本語スピーチ部門	1 位	日本語	文芸学部・2 年	
	パフォーマンス部門	1 位	中国語	文芸学部・2 年	
	人気賞（特別賞）		日本語	留学生別科	

表5 各回の審査結果



写真 5 表彰式



写真 6 発表者と審査員

2.2.5 今後の展開

当初、本行事の発表者は第二外国語として学びはじめた学生であったため、初級レベルでありながらもパートナーの力を借りながら、人前で発表することを通して自信をつけ、次のステップへ繋いでいくことを主催者側として意図していた。ところが、回を重ねる毎に発表者が増え、中には本学の海外語学研修に参加したり、休学して個人留学を終えた学生が中級レベル以上の語学力を披露したりするケースが現れてきた。「ことばのフェスティバル」参加者は、第二外国語の履修者数全体からするとごく僅かな数であるが、このようなケースが現れたことは、本学における第二外国語教育の質的向上の成果であるとも言えよう。

このように、本行事は数的・質的な向上が現れてきたが、全5回の活動を振り返りつつ、今後、より質的な向上を目指すために、いくつかの点を改善していく必要がある。

まず、本行事を開催するにあたり、本行事を主催している教養・外国語教育センター広報出版委員会の年間行事として、開催時期を12月中に固定させることである。過去5回は全て12月に行なってきたが、会場の確保を後期に入ってから始めたため、学内の他行事との重複から、会場の確保が困難な場合があった。年間行事として定着していけば、年度初めからの調整が可能であろう。

開催時期が固定されれば、それに伴い広報活動も前期から外国語の授業時間を通して予告ができ、段階を踏んだ広報活動が可能になる。それにより、本行事に出場するためだけに、発表者が短期間で準備をするのではなく、日頃の学習成果を発表する場として位置づけ、語学学習の目標のひとつとして設定することが可能になる。そのためには、全学的な認識をさらに広めていくことも必要になろう。

また、発表者の多様化に伴い、第5回は発表言語や内容により部門を設け、細分化した。今後も多様な発表者が現れることを前提とし、発表部門の固定化を進めていく。同時に、発表者の外国語レベルが向上しつつあるため、中上級レベルも含めたレベル別による

部門の設置も検討していく。

多様な発表者がいることは望ましいことであるが、ある程度質の保証も必要となってくるであろう。申し込みの人数によっては、申し込み時点での発表希望者の外国語学習状況やレベル等を事前に審査する必要も出てくる。勿論、初級レベルだからと言って発表を制限するのではなく、主催者側が提示する一定の基準をクリアしていることを条件とする。

これまで発表の申し込み後は、約1ヶ月間の練習期間があったが、本行事は発表者本人の努力のみならず、パートナーとなる留学生との共同作業を進めていくことが前提であった。しかし、本学の留学生のうち、ドイツ語やフランス語を母語とする留学生が在籍していなかったため、ともに練習を行なうパートナーを教員に依頼することもあった。今後、パートナーは学生同士で組むことを前提とすることには変わらないが、場合によっては中国語や韓国語でも教員が指導することを認めるよう検討していく。これは、「パートナーシップ」と「ことばのフェスティバル」が連動した行事であったが、前述のとおり、2013年度以降は「パートナーシップ」を実施しない方向であるため、パートナーとなる学生が見つからないことも考えられるためである。

過去5年間、本行事は多くの試行錯誤を経て現在に至った。しかし、これらの試みが、発表者の外国語レベルや発表内容の質的向上のほか、外国語を用いたパフォーマンス部門の増設など、バラエティーに富んだイベントへの成長に繋がった。質的向上のみならず、多様化も見られる本行事を、今後とも学生の外国語能力やプレゼンテーション能力を発揮できる場として、引き続き充実させていく必要がある。

そして、本行事で発表に至るまでの準備過程には、協調や葛藤、価値観の共有など、発表者とパートナーにとっては異文化理解の役割も担っている。これらの過程は、国際化に対応した人材育成にも通じるものである。これは、本行事が本学における教育において、様々な可能性を含んでいることを意味する。現時点ではその事例が数件見られる程度であるが、今後、本行事の計画から広報、発表者の募集をこれまで以上に計画的、組織的に行なうことにより、さらなる充実化が期待できる。今後も発表者のレベル向上が見られる場合、発表者には本行事後に、学外で行われている各種スピーチコンテストへ出場することを勧めることもできるであろう。

そこで、本行事のより充実した活動を実現すべく、今後、幅広い予算措置が取られることが望まれる。第1回開催時は手探り状態で始まったが、当時は予算措置がほぼゼロの状態から出発した。その後の発展経過については、上述のとおりであるが、それに伴う予算措置に例年大きな変化がないことは、主催者が発表者に対して努力と成果を認める表現方法が限られることにもなる。本学における第二外国語の履修者は、約10,000名を超える。「ことばのフェスティバル」の参加者はごくわずかであるが、その小さな芽を増やし、「国

際化に対応した人材」として大きく成長させるためにも、予算措置の拡大を切に望むものである。今後、実行委員としても、より魅力ある行事として発展させていくためにもさらなる検討が必要であるのは言うまでもない。

本行事は、これまで多くの教職員の協力のもと実施されてきた。在学生の学習意欲向上を図り、より高いレベルの外国語能力の習得を促し、さらには国際化に対応できる人材を育成していくためにも、今後も引き続き実施していくことが必要である。

3. 教育交流活動と第二外国語教育の相互補完を目指した活動の提案

ここまで報告した上記二行事における実施目的は次のようであった。即ち、「本学の日本人学生と留学生が出会う機会を提供し、学生相互の自主的かつ積極的な国際交流活動へ展開させること」(パートナーシップ)、「発表者とパートナーの共同作業を通して、ことばの運用能力の向上、および学生間の活発な相互交流と相互理解」(ことばのフェスティバル)を図ることである。

過去五回に渡る実施結果として、参加者の行事前後の様子を見ると、学内では日本人学生と留学生間において自然な形で交流が行なわれ、更に直接交流をする中で、相互理解に向けた努力がなされていることが見受けられる。この点を見る限り、上記目的はある程度達成できたと言えよう。つまり、魏・酒匂(2009)にて挙げられた「内からの国際化」を目指して活動を開始した本行事が、外国語教育を出発点として、本学内における異文化理解の実践を通して、学内での国際交流の活性化へ繋がってきた結果であると言えよう。

具体的には、次のような結果が表れている。まず、日本人学生と留学生との間で積極的な交流を継続し、ことばの学習と留学生との交流を行なう自主サークル²が結成された。そして、日本人学生が語学研修や交換留学に挑戦したり、さらには語学研修や交換留学での経験を機に継続的な学習を求めるために本行事に参加してきたことが挙げられる。そのほか、参加者の多くは語学センターにおける無料講座の受講生として、継続学習を続けていることも確認できている。

また、「ことばのフェスティバル」に発表者として参加した学生の中には、他の言語での発表を見て刺激を受け、新たに他の外国語の学習を始めたという者もあり、複数言語の学習に挑戦するきっかけを与える場にもなっている。

そこで、今後もこの活動を継続しつつも、外国語学習に対する学習動機が確実で、目的意識の高い学生に対する自主的な学習や交流活動を側面から支援することにより、教育を担当する側としても様々な可能性に挑戦することができるであろう。その実現に向け、筆者らは教養・外国語教育センター広報出版委員として、今後、次の二つの活動をしていく提案をしたい。

①「第二外国語学習支援室」の設置・運営

現在、本学の第二外国語教育のカリキュラムにおいて、一学生が同一言語で学べる最多単位数は、10単位となっている。一週間に一コマ或いは二コマの受講が可能なカリキュラムであるが、受講生の中にはこれ以上の学習を望み、上記報告内のように自ら学ぶケースも見られる。その学びに対するニーズを受け入れながら、学生の能力を最大限に引き出し、していくため、カリキュラム外における教育活動として、「第二外国語学習支援室」の設置・運営を提案したい。

これは、旧語学教育部において運営していた「英語カウンセリング・ルーム」および「第二外国語サロン」で行なっていた、外国語学習や検定試験、留学などに関する疑問や質問に対し、教員が回答していた学習相談を受けつける場のことである。今回、この実績を基に改めて運営しようとするものである。

設置・運営方法の概要は次のとおりである。まず、運営時期を前期は6月、後期は11月とし、期間を1ヶ月程度と定める。これは、各学期の中間時期に相談を受けつけることにより、学期前半の疑問点を解消し、学期後半への学習に繋げていく目的がある。また、運営期間を限定することにより、学生への案内も授業時間などを利用しながら集中的に行なうことができる。

相談受付時間は担当委員³が週一回、一コマ程度の時間を設け、各言語につき週一回相談を受けつけるようにする。そして、場所については、学生にも利用しやすい部屋を学内で一室借用し、ここには相談時に必要な資料類を揃える。

また、「第二外国語学習支援室」は学習相談のみならず、学習相談を通じたさらなるモチベーションの向上を目的とし、その運営には教員のみならず、在学中の留学生にも協力を求め、外国語での会話ができる空間の提供を目指す。しかし、この制度は日本人学生のみならず、留学生にとってもメリットが感じられなければ協力が得られないであろう。そのため、留学生にとっては支援室に来ることにより、日本人学生と知り合える機会を提供すること、また、担当委員との対話（場合によっては留学生の母語による相談）を通じ、留学中の悩み等を聞く相談窓口としての役割も担っていく。

本制度は外国語を学ぶ場としてのほか、「ことばのフェスティバル」以外にも外国語を使用する場として、また学生の外国語の実力が診断できる場を提供する。外国語学習に積極的に取り組み、一定のレベルに達した学生に対して、次のレベルを目指してもらうためのアドバイスを行なう制度であり、新たな形での教育活動を目指すものである。

②「新・パートナーシップ（仮）」の開催

外国語学習の大きな目的として、学んでいる言語を母語とする人々と直接会話をするこ

とが挙げられる。そこで、この目的の達成に向けた機会を提供するため、上述の「パートナーシップ」を行なってきた。しかし、前期に実施してきた「パートナーシップ」を実施しないことにより、1年生にとって、留学生と出会う機会が減ることになる。これは、「パートナーシップ」をきっかけとして、入学後に学びはじめた外国語学習の目的が達成されないことにもなり、モチベーションの低下にも繋がりがかねない。しかし、日本人学生と留学生が交流するきっかけ作りは引き続き必要であろう。以上の点から、1年生を主な対象とした「新・パートナーシップ（仮）」の開催を提案する。

上述のとおり、「パートナーシップ」を前期に開催してきたが、「新・パートナーシップ（仮）」は1年生を対象とするため、入学後に学びはじめた外国語の学習がある程度進んだ後期に実施する。そして、外国語学習の成果が実感できる場、また留学生にとっては日本人学生との交流の場になることを目指し、当日の流れも従来とは違った内容とする。従来はフリートーキングを中心とした行事であったが、この時間も維持しつつ、外国語と日本語の学習成果が確かめられる課題をこなす時間としていく。

学習の成果を確かめつつ、交流にも繋がる制度としていくが、いずれにしても日本人学生と留学生の双方にとって有意義な時間になるよう、企画・運営することが重要である。

4. おわりに

ここまで近畿大学語学教育部学習支援委員会、および近畿大学全学共通機構教養・外国語教育センター広報出版委員会の活動として実施してきた「パートナーシップ」、および「ことばのフェスティバル」の報告と、今後の活動内容案を提示した。

これらの活動には、事前企画から当日の運営・撤収まで多くの一連の業務が含まれるが、それらが担当委員のみで成立するものでないことは言うまでもない。常に委員以外の教員、また関係事務部署（旧語学教育部、教学本部、学務部、国際交流室、国際学生交流センター、日本語教育センター、語学センター）職員の方々からの協力を得てこそ実現が可能であった。これまで物心両面で多くの協力をいただいた本学教職員の皆様に紙面上であるが、謝意を表させていただく。そして、今後も本活動をさらに充実させていくためにも、引き続き理解と協力を得ていきたい。それには、外国語担当の教員内のみならず、全学的な関心を集め、広く学内行事としての位置づけを高めていくことを目指す必要がある。

数多くある外国語のうち、最も先に挙げられるのが英語である。しかし、いわゆる第二外国語と言われる言語も、日本語母語話者からすると外国語の一つであることは事実である。これまで本行事を通して出会った学生の中には英語を得意とする人、反対に苦手とする人も多くいた。しかし、英語以外の言語の学習を通して改めて外国語学習に興味を持ち

はじめたケースも多くあり、時には英語よりも得意になるケースも見受けられた。また、第二外国語を学習することにより、英語学習の重要性を再認識するケースもある。何事にも人によって向き不向きがあり、外国語学習もまた同じである。今後、社会において英語がさらに重視されることは疑いない。しかし、英語以外の外国語学習を通して、学習者が新たに発見し、多様な価値観を身につけ、語学力を駆使して成功に繋がる可能性も十分にある。本行事はこのような価値観の多様性の発見にも繋がる要素を含んでいることを記しておきたい。

そのほかにも、本行事を学内行事として終えず、常に学外へも発信を行ないながら、社会との接点を探っていくこと、そして、外国語および留学生教育研究の成果としてさまざまな仮説を実証していく研究活動に結びつけることも、本活動を発展させていく要素として考えられる。

本行事はあくまでも近畿大学における授業時間外、カリキュラム外の活動である。しかし、学習意欲のある学生の実力養成ができるツールを提供して、ここで得られる成果が学生にとって限りなく貴重なものであるならば、これらの活動に対する異論はないであろう。

注

- 1 第1回から第3回の実施内容については、魏穂君・酒勾康裕（2009）、酒勾康裕・徳永恭子・大東和重（2010）、酒勾康裕・林君穂（2011）にて報告を行なっている。それぞれの詳細についてはこれらを参照されたい。
- 2 2011年度に言語（中国語、韓国語、日本語）の学習およびそれぞれの言語圏から来ている留学生との交流を目的として、学生主体の自主サークルが結成された。
- 3 平成25年度よりドイツ語・フランス語・中国語・韓国語の教員が一名ずつ委員となっている。

参考文献

- 魏穂君・酒勾康裕（2009）「学生交流から始める国際化－中国語及び韓国語の履修学生を対象とした教育交流活動報告－」、『語学教育部ジャーナル』第5号，pp.141-172，2009年3月。
- 酒勾康裕・徳永恭子・大東和重（2010）「学生交流から始める国際化 その2－第二外国語の履修学生を対象とした教育交流活動報告－」、『語学教育部ジャーナル』第6号，pp.203-249，2010年3月。

酒匂康裕・林君穂（2011）「学生交流から始める国際化 その3－第二外国語の履修学生と留学生の教育活動報告及び今後の展開－」, 『近畿大学教養・外国語教育センター紀要（外国語編）』 第1巻 第2号, pp.211-233, 2011年3月.

【資料編】

1. 「ことばのフェスティバル」発表原稿

受賞作を中心に掲載する。なお、本紀要掲載にあたり、誤字など、発表者の了解を得たうえで、本稿著者たちによって若干の修正を行なった。また、フランス語に関しては、松村博史准教授に校閲を依頼した。

1.1 外国語スピーチ部門（文芸学部3年生、男性、ドイツ語学習歴2年6ヶ月）

Bericht über meine Deutschlandreise

Guten Tag! Ich heiße ○○○. Jetzt berichte ich über meine Deutschlandreise. Weil ich deutsche Geschichte an der Uni studiere, lerne ich auch Deutsch. In den letzten Sommerferien bin ich zwei Wochen lang zum ersten Mal allein nach Deutschland gereist. Ich habe meine Reise selber geplant, ohne Gruppenreise zu buchen. Bei der Hotelreservierung und beim Fragen nach dem Weg habe ich aktiv Deutsch gesprochen. Allerdings ist es schwerer als ich es mir vorstellte. Ich hatte viel Mühe. Als ich mich mit den Leuten nicht verständigen konnte, habe ich leider English gesprochen. Deutsche haben mir freundlich zugehört. Es ist sehr schade, dass ich mich manchmal nicht verständlich machen konnte. Ich will nun Deutsch noch weiter lernen und möchte später in Deutschland mit Deutschen mehr sprechen.

Apropos, viele Deutsche machen Freizeitaktivität im Freien und genießen den Urlaub. Man fährt besonders gern Fahrrad, und man kann sein Fahrrad in den Zug mitnehmen. Auch ältere Leute joggen und fahren Fahrrad. Ich mag auch das Joggen. In den Ferien jogge ich draußen und nehme an Sportveranstaltungen teil. Für viele Japaner steht aber immer die Arbeit im Mittelpunkt. Ich gebe meine Freizeitaktivität nie auf, auch wenn ich bei einer japanischen Firma arbeite. Ich werde weiter Deutsch lernen und Laufen trainieren. Dann werde ich einmal Deutschland zu Fuß durchqueren.

Vielen Dank für Ihre Aufmerksamkeit.

私のドイツ旅行記

こんにちは！私の名前は○○○といいます。これから私のドイツ旅行についてお話しします。私はドイツの歴史について勉強するうちにドイツ語にも興味を持って勉強してきました。私は去年の夏休みに、初めてドイツを2週間かけて一人で旅行しました。しかもバック旅行ではなく、すべて自分で段取りを決めました。ホテルの予約や道を聞く際には積極的にドイツ語を話しました。しかし、それは私が想像していた以上に難しいことでし

た。その為に苦勞することが多くありました。結局伝わらなくて英語に逃げてしまうこともありました。ですが、そんな僕のドイツ語もみんな嫌な顔もせずに聞いてくれました。だからこそ気持ちをちゃんと伝えられないのを悔しく思いました。今度はさらにドイツ語を勉強し、ドイツで現地の人たちともっとたくさん話したいと思います。

ところで、ドイツでは余暇を外で過ごし、休日を楽しんでいる人が多いです。自転車は特に盛んで、電車の中にもそのまま積み込むことができます。年配の人もランニングをしたりロードバイクで走ったりしています。私もランニングが好きで、休日は外でジョギングをしたり、大会に出たりしています。しかし、働きはじめると日本人の多くはいつも仕事为中心となります。私は働きはじめても、ドイツ人のように趣味のランニングを続けたいと思います。ドイツ語をさらに勉強し続け、ランニングのトレーニングも行うつもりです。そして、いつかドイツを走って横断したいと思います。

ご静聴ありがとうございました。

1.2 外国語スピーチ部門（文芸学部4年生、女性、フランス語学習歴3年5ヶ月）

Bonjour à tous et à toutes. Je m'appelle ○○○. Je suis en quatrième année, en section des Beaux-Arts de la Faculté de Littérature.

Le titre de mon exposé est “Le français et moi”. Je voudrais donc vous parler des liens qui m'unissent à cette langue.

Depuis mon enfance, j'aime peindre ou fabriquer de petites choses. Et j'ai choisi la section des Beaux-Arts de l'université de Kinki pour me spécialiser dans ce domaine.

En première année, j'ai appris que beaucoup de mots français sont utilisés en art. Par exemple “dessin”, “atelier”, “esquisse”, etc. C'est la raison pour laquelle je me suis intéressée à la langue française.

D'autre part, quand je fabrique mes objets d'art, je m'inspire souvent des machines des romans de Jules Verne, qui est français, comme vous le savez. Comme j'adore le genre qu'on appelle “steampunk”, je continue à étudier dans le but de lire les romans de Verne en français.

Voici un exemple de machine à la Verne.

Quand j'ai commencé le cours sur le verre, en deuxième, je me suis intéressée aux artistes de ce domaine. Et c'est le français Emile Gallé qui m'a le plus émue. Il y a souvent des influences du japonisme dans ses oeuvres. On dit qu'elles ont des relations profondes avec l'ukiyo-e japonais.

Voici deux exemples.

Je trouve vraiment intéressant que la France et le Japon soient ainsi connectés dans le domaine de l'art, alors que ce sont des pays très éloignés.

Un jour, je voudrais aller en France, comme artiste spécialisé dans la confection d'objets d'art, même si l'idée me rend un peu anxieuse. Et si c'était possible, je voudrais demander aux Français leurs impressions au sujet de mes créations.

Je serais heureuse si, à l'occasion de cet exposé, vous vous intéressiez à la France et au français. Comme c'est amusant d'apprendre le français, venez suivre un cours au centre des langues étrangères !

Voilà, je vous remercie de votre attention.

こんにちは、はじめまして。文芸学部芸術学科4年の〇〇〇と申します。

今日は「自分とフランス語」というテーマで発表したいと思います。

私は小さいころから、絵を描いたり何かを作ったりするのが好きで、大学では専門的に造形について学びたいと思い、芸術学科を選びました。

1年生の時の授業で、「デッサン」や「アトリエ」、「エスキース」など、芸術に関する用語にはフランス語がたくさん使われていることを知り、フランス語に興味を持つきっかけになりました。

また、作品を制作するときに、ジュール・ヴェルヌの小説に出てくるような機械をモチーフにすることがよくあります。そのようなジャンルは「スチームパンク」と呼ばれており、私はそれが大好きなので、今はヴェルヌの小説をフランス語原典で読むことを目標に勉強を続けています。

ジュール・ヴェルヌの小説に出てくる機械とは、例えばこんなものです。

2年生になってガラス造形の授業が始まると、ガラスの作家にも興味を持つようになりました。とりわけ感銘を受けたのはフランス人作家のエミール・ガレです。彼の作品にはしばしばジャポニズムの影響が見られ、日本の浮世絵との関係が深いようです。

ここで二つの例をお見せします。

フランスと日本はこんなに遠く離れているのに、芸術という分野でつながっているというのがおもしろいと思います。今は少し不安もありますが、ものづくりをする身として、機会があればぜひフランスに行ってみたいです。そしてもしできるなら、自分の作品を持って行って、現地の方の感想を伺いたいです。

今日のこの機会で、みなさんがフランス語に興味を持てくだされば嬉しいです。フランス語を学ぶのはとても楽しいので、ぜひみなさんも一度、語学センターの授業をのぞきにきてみてください！

これで私の話を終わります。ご清聴ありがとうございました。

1.3 外国語スピーチ部門 (文芸学部2年生、男性、韓国語学習歴1年6ヶ月)

여러분, 안녕하십니까? 문예학부 영어다문화커뮤니케이션학과 2학년에 재학중인 ○○○라고 합니다. 전공인 영어를 공부하면서 틈틈히 한국어를 공부하기 시작한 지 2년째가 되었습니다.

오늘 이 자리에는 많은 친구들이 우리 스피치를 보러 와 주었습니다만, 그 외에도 저를 기억해 주시는 분들이 있을지도 모릅니다. 실은 작년에도 저는 제 친구와 두 명으로 이 코토바의 페스티벌에 참가 했었습니다. 하지만 결과는 참담했습니다. 너무 긴장한 나머지 머리 속이 하얗게 되어 중간에 무슨 말을 해야 할지 까먹었고, 대사도 중간중간에 날려 버리고 난리도 아니었습니다. 아마 참가자 중에 시간이 지났다는 벨이 울린 것은 저희들뿐이었을 겁니다. 하지만 이번에는 작년에 그런 실수를 만회하고 무엇보다 지난 1년 동안 자신이 얼마만큼 성장했는지를 시험해 보고 싶은 마음에 다시 이 자리에 서게 되었습니다.

처음 한국어를 공부하기 시작했을 때는 저와 주변의 친구들과 차이가 확연했습니다. 작년부터 시작된 한류붐을 시작해 케이팝 드라마를 통해 한국어에 자연스럽게 익숙해진 반 친구들은 수업에서 배우지 않은 자연스러운 한국어로 이야기하고 사진에 찍힌 한국어 간판도 막히지 않고 술술 읽을 수 있었습니다. 그와 반면에 저는 간단한 단어조차 암기하는데 시간이 걸리고 열심히 수업을 들어도 시험 때는 점수가 안 나올 때가 많았습니다. 하지만 이러한 핸디캡에도 불구하고 저는 자신의 페이스, 자신의 방식으로 공부를 해 나가자고 마음을 먹었습니다. 암기를 잘 못하는 저의 성격상 지금 이렇게 틀리고 실수 해 놓지 않으면 결국 나중에 어느 시점에 가서 막힐 것이 분명할 것이라고 생각하니 마음이 굉장히 편해졌습니다.

전공도 아니고, 어학센터에 다니는것도 아닌 단지 주 1회 수업만으로 한국어 실력을 늘릴 수 있게 된 것은 여러가지 이유가 있습니다. 우선 첫째로 긴키대학에는 아시아권 유학생들이 많이 재학하고 있기 때문입니다. 무엇보다 어학 실력을 늘리기에는 네이티브와 대화를 하는 것이 가장 중요한데 긴키대학 유학생들은 모두 상냥하고 일본어도 능숙하기 때문에 그들은 저의 친구이면서 동시에 누구보다도 친절하고 자세히 한국어를 가르쳐 주는 선생님이 돼 주었습니다. 그 다음으로서는 페이스북을 이용한 작문 연습이나 오늘 있었던 일 등을 한국어로 쓰는 연습을 하는 것인데 이것은 일상 생활에 자주 쓰이는 단어를 경험을 통해 외울 수 있게 되고 틀린 문법은 친구들이 친절하게 지적해 줍니다.

그리고 또 한 가지는 노래를 귀가 아플 만큼 들어 가사를 외우는 것입니다. 이 것은 영어공부를 할 때도 쓰던 방법이었습니다만 노래는 감정이입을 하기 쉽기 때문에 금방 말을 외울 수 있습니다. 「사랑해」라던가 「죽을만큼 보고싶어」 같은 말들을 금방 외울 수 있

습니다. 또한 노래 가사의 랩에는 회화체의 표현들이 많기 때문에 그러한 표현들도 많이 외울 수 있습니다.

이렇게 지금까지 여러분들에게 말씀 드린 것과 같이 방법은 사람에 따라 천차만별이겠습니다만 저로서는 대학교에서 4년 동안 공부하는 것만으로 외국어 공부가 끝나는 것이 아니라고 생각하고 있기 때문에 자신만의 페이스와 자신만의 방법으로 때로는 천천히, 때로는 있는 힘을 다해 라이프워크로서 외국어와 접해 나가고 싶습니다. 이것은 어학에 대한 자신감이 아니라 제가 지금까지 노력해서 습득해 온 저만의 방식에 대한 자신감입니다. 지금 틀리는 것이 창피한 일이 아니라는 것을 지금 비웃음을 사더라도 나중에 칭찬을 듣는다면 그것은 의미있는 실패라는 것을. 지금까지 저의 이야기를 들어 주셔서 감사합니다. 여기까지 읽었는데 벨이 안 울렸기를 빕니다.

皆さんこんにちは。文芸学部、英語多文化コミュニケーション学科2年の〇〇〇と申します。専攻である英語の傍ら、外国語としての韓国語にハマり、ハングルの読み書きから初めてそろそろ2年になろうとしています。

ここにはたくさんの友達が今日のスピーチを聞きに来てくれていますが、それ以外にも僕の事を覚えている人もいるかも知れません。実は去年も僕は当時4回生だった友人と二人でこの言葉のフェスティバルに出場しました。しかし、結果はひどいもので、言葉に詰まってしまったり、台詞が飛んでしまったり。出場者の中で時間切れのベルを鳴らしたのは僕らだけだったと思います。今日はそんな去年の雪辱を晴らすべく、何より、この1年での自分の成長を試したく、いまこの場に立っています。

韓国語を習い始めた最初の頃は、周りとの差は歴然でした。昨今の K-POP、韓流ブームから音楽やドラマを通して韓国語に慣れ親しんできたクラスメイト達は授業で習っていてもいないフランクな表現で話し、写真に写るハングルで書かれた看板もすらすらと読んでいきます。一方僕は、簡単な単語もなかなか覚えられず、真面目に聞いていてもテストで点数が取れない事ばかりでした。しかし、ハンデを感じながらも、自分のペースで勉強をしていこうと決めました。もともと物覚えの悪い僕ですから、今間違えておかないと、あとあと結局どこかで行き詰まるのだと開き直ってしまえば気持ちはとても楽でした。

専攻でもない、語学センターにも通ってない、週1回の授業だけの韓国語を伸ばせるようになったきっかけはいくつかあります。まず一つは、近畿大学にアジア圏留学生が豊富に在籍しているという点。やはり、ネイティブと話すというのは大切で、それもみな優しく、日本語も上手なので彼らは僕の友人でありながら、誰よりも詳しく韓国語を教えてくれる先生になってくれました。次に facebook を使った作文練習。今日あった事等を、韓国語で書く事で身近な単語を経験を通して覚え、間違えた文法を国内外の友人たちが指摘

してくれます。

そして、もう一つが歌詞を頭に叩き込んで言葉を覚えること。これは英語の時にも取っていた手法ですが、感情移入がしやすい分、豊富に単語も覚えられます。「愛してる」とか「死ぬほど会いたい」とか、そういった言葉ならすぐに覚えられます。で、ラップなんかを参考にすると話し言葉も多いので便利な表現をたくさん覚えられます。

このように、方法は人それぞれ色々ありますが、僕にとって、外国語はこの大学での4年間だけのものではないので、自分のペースで、時にゆっくり、時に懸命に、ライフワークとして取り組んでいきたいと考えています。それは、語学に対する自信ではなく、自分のやり方に対する自信です。いま間違ふことは恥ずかしい事ではないと、誰に笑われても将来褒められるならそれは意味のある失敗だと。僕の話聞いてくれてどうもありがとうございました。ここまでベルの鳴っていない事を願います。

1.4 日本語スピーチ部門（文芸学部2年生、女性、滞日年数3年1ヶ月）

タイトル「お名前は……？」

皆さん、こんにちは。私は日本に来てもうすぐ3年になりますが、今でも一番悩んでいるのは「お名前は……？」という問題です。

先週の週末、バイト先のある人が1か月ぶりに出勤してきました。私はとてもうれしくて、すぐ「タジカニくん、お久しぶり、元気ですか？」と親しく話しかけました。しかし、彼の顔色は悪くなり、周りの空気が変わって、ほかの人たちが笑ってしまいました。私は自分がまさか名前を間違えたのかなと思って、意識せずに「え！お名前は？」と口から出ました。そして、彼はタメ息をしながら、「ああ、タジカニではなく、カジタニだよ！」と言われました。こんな風に私は人の名前を間違えたことがあります。

そして、昨日ある友だちと彼女の先輩と出会いました。友だちの名前は河野（かわの）さんと言います。私は彼女の先輩と初めて会ったので、ふつうに「お名前はなんですか？」と聞くと、その先輩はとても親切で、名刺を渡してくれました。偶然にその先輩も「河野」という苗字が書いてあります。私はすぐ「二人は同じ苗字じゃないですか！縁がありますねえー」と言いました。しかし、二人はとても不思議な目で私を見て、名刺を見ると、二人で爆笑し始めました。すると、その先輩は「私はこうのといます」と笑いながら、教えてくれました。私は「へえー同じ字なのに……」と不満に思いました。日本語は、同じ漢字なので、読み方が違うものもあるんですね。

また、この間の話なんですけど、友だちと最近見ている面白い日本のドラマについて一緒に話しました。私たちは偶然に同じドラマの話で盛り上がりました。それは、戸田恵梨香や加瀬亮等が出演している『SPEC』というドラマです。ドラマの中に出てくる人物の

名前で友だちと討論になりました。それは、神木隆之介が演じた人物です。彼が演じた人物の名前はこれです。私は「いちじゅういち」と呼んでいましたが、友だちは「ひとじゅういち」と呼んでいました。皆さん、この名前は どう読むと思いますか。私は日本語を教える先生に聞くと、先生は「にのまえじゅういちって読むんですよ。」と答えてくれました。私は何でそう読むのかわからなかったんですが、先生は「だって、一は二の前あるでしょう」と言われました。ああ、確かに「いち は にのまえにあるなあ」と私は名前のせいで、頭がもっと痛くなりました。

その後、先生は「一」という漢字のほかにも数字で表した珍しい名前があることを教えてくれました。例えば、「十」という漢字は何と読みますかと聞かれました。さっき一は二の前にあるから、「にのまえ」と読むことが分かったので、「十」は「九の後」か「十一の前」とよむじゃないのかなあと思いました。でも、現実はやはり違いました。じゃ、皆さんはどう思いますか。実は「十」は「つなし」と呼びます。先生はそれには理由があると言いました。「一つ」、「二つ」、「三つ」と皆さん、数えてみてください。ほら、「十」の時は「とお」と呼ぶから、「つ」付かないですね。だから、「つなし」と呼びます。私はこの説明を聞いて、呆れました。ちなみに、「一二三」は「ひふみ」と呼びます。ちょっと想像してみてください。もし「一一二三」という人がいたり、「十一二三」という人がいたら……なかなか面白いですね。

ああ、日本人の名前は本当に似ているものもあるし、特別なものもあるし、同じ書き方だけど読み方が違うのもあるし、同じ読み方だけど書き方が違うのもいろいろあります。だから、よく混乱してしまいます。だから、よく何回か会ったことがある人でも、まだ名前が確定できないので、いろいろ話をしてから、急に「すみませんが、お名前は……？」というセリフがよく口から出てきます。

だから、ここににいる知り合いの人にも、ここにいない知り合いの人にも、心から謝りたいと思います。本当にごめんなさい。私は、これからもみんなの名前覚えるように頑張ります。しかし、本当に名前が確定できないとき、私が何回も「お名前は……？」と聞いてもぜひ許してください。

ご清聴ありがとうございました。



図1 発表者が作成したスライド

1.5 外国語パフォーマンス部門（文芸学部2年生、女性、中国語学習歴1年6ヶ月、留学生とペアで発表）

A: 大家好，欢迎收看 CVQ 的电视直销节目。

马上就要过年了，大学生的各位同学你们还有在收压岁钱吗？

B: 有啊有啊！

A: 那么您收到压岁钱之后，打算买什么东西呢？

B: 我特别想买一台智能手机，但是没有什么想要的。

A: 别担心，今天我们就来介绍一台，最新的智能手机！

B: 真的吗？哇，太好了！

A: 就是这款，感叹 Phone！这款感叹 Phone 采用了现在世界上最流行的设计，比一般的智能手机还要厚 1 厘米呢！

B: 可以这么厚吗？

A: 当然可以啊！据调查，这个厚度拿在手里最舒服。

市场上的智能手机都特别贵，想买一台要挣好多钱呢？

B: 是啊，作为学生的我们只好卖肾了。

A: 因为肾脏只有两个，大家也不愿意用它来换手机吧？

一般智能手机的市场价格是 4999 元，但是今天我们近畿大学特别价格只需要 3999 元！

B: 好便宜啊！

A: 今天再便宜一两千块 1999 元，您看，怎么样？

B: 哇，太不可思议了！

A: 不要高兴得太早！今天收看我们节目的朋友，再特别半价优惠。震撼价 999 元！

B: 太便宜了吧！

A: 今天来电订购的朋友，再送您一副耳机。

B: 这已经够便宜的了还送耳机啊？

A: 请注意，从现在开始 5 秒以内来电订购的朋友，再送您一台！

两台只需要 999 元，请注意是两台 999 元！

有这两台的话，如果您有两个女朋友，也不用担心啦！

B: 真的！这样的话劈腿也不会被发现了。

A: 实在是太便宜太方便了！但是数量有限，立刻拿起电话，拨打我们的订购热线，110-100-1100

A: みなさん、こんにちは！ CVQ 通販番組の時間です！！もうすぐお正月ですね！

大学生になっても、みなさんはお年玉もらってますか？

B: もらってますよ～！

A: ではあなたはお年玉で何を買おうと思ってますか？

B: 私はもうそろそろ新しいスマホに変えたいなって思ってます。でもなかなかいいデザインが見つからなくて、、、。

A: ご安心下さい。最新のスマホをご紹介します！

B: え～嬉しい！

A: それがこちら！ビックリ Phone ！！！このビックリ Phone は、世界中で最も流行っているデザインを採用しており、従来のスマホより、1 c m 厚く仕上げました！

B: え！厚くしたんですか？！

A: そうすることによって、誰の手にもフィットするようになります！
市販のスマホって高くて、なかなか手が出せないですよね？

B: そうなんですよ～、学生は腎臓を売るしかないですよ～

A: 腎臓を売ってまで買うのも嫌ですよ～？ 2つしかないですもんね～そこで今回は普通では 4999 元するこのデザインのスマホを今回近畿大学特別価格特別に 3999 元で買えちゃうんです！！

B: めっちゃ安いやん！！！

A: でも今回はさらにお安くして 1 9 9 9 元でご提供します！！

B: こんなに安いなんて信じられない！

A: まだ喜ぶのはまだ早いです！今回はなんとさらに半額でご提供します！！

B: え～～～～！！！！

A: お値段なんと！驚きの 9 9 9 元！！！！

B: 安すぎる！！！！

A: さらに今回はご注文いただいた方に、イヤホンもプレゼントいたします！！

B: これだけでも安いのに？！イヤホンまでつくの？

A: ご注意ください！さらに今から 5 秒以内にお電話いただいた方には特別にもう 1 台おつけいたします！2 台で 999 元！いかがですか？

B: 2 台で 999 元！

A: 2 台あれば、彼女が 2 人いても安心して使い分けできますよね！

B: そうですね！これなら、浮気も簡単にできますね！！二股かけても見つかりません！

A: 超安くて超便利！しかし今回はご提供できる台数が 100 万台に限られていますので、ご注文は今すぐこちらの番号にお電話ください！！110-100-1100

2. 「ことばのフェスティバル」観覧客からの感想

2.1 文芸学部1年（女性）、受講している第二外国語：韓国語

練習量や熱意が伝わるスピーチばかりですごく面白かったです。特に外国人学生のスピーチでは文化の違いや日本人と外国人の着眼点の違いに驚きや面白さを感じました。

学校関係者が見られる範囲のみでのネット公開やDVD化して図書館で所蔵してもらえると嬉しいなと思いました。

2.2 経営学部1年生（女性）、受講している第二外国語：韓国語

母語ではなく、外国語で話し、伝えることは難しいことだと思われるのに、皆さん、スピーチやパフォーマンスをされていて素晴らしいなと思いました。私も来年、参加してみたいなと思いました。

2.3 総合理工学研究科修士2年（男性）、受講している第二外国語：ドイツ語

ドイツ語の発表は自分のリスニングの勉強になり、他の発表は他言語に興味を持たせてくれる素晴らしいものでした。

また来年の応募者を増やすにはPVを作って語学授業で流されてみてはいかがでしょうか？

2.4 経営学部1年生（男性）、受講している第二外国語：フランス語・イタリア語

さまざまな言語でさまざまな人がいろんなことを発表しており、とてもよい勉強になった。1年生で外国語スピーチに参加している方もおり、僕もさまざまな他の言語を学ぶ必要があると思いました。ある意味での危機感を覚えました。特に、「驚き！！面白い文化！in イタリア・フランス・ドイツ」はとってもおもしろかった。僕は、英語は話せるが、それ以外にも違う言語を覚える必要があると思った。